

2022年 3月期第3四半期 決算説明

2022年2月10日
いすゞ自動車株式会社

説明内容

1. 全体総括
2. 2022年3月期第3四半期実績及び通期見通し
3. Q&Aセッション

本資料における記述のうち、過去又は現在の事実に関するものを除いては、現時点で入手可能な情報に鑑みてなされた当社の仮定及び判断に基づくものです。従いまして、かかる仮定及び判断に含まれる不確定要素や将来の経済環境の変化などを含む種々の要因によって影響を受ける可能性があり、ゆえに、当社の将来の業績、経営結果等と異なる結果をもたらす可能性があります。

1. 全体総括

取締役専務執行役員
経営業務部門、
企画・財務部門統括

南 真介

全体総括①

1. '22年3月期第3四半期実績

- 海外市場は引き続き好調だが、引き続き部品調達に苦戦。
- 国内CV販売及びタイLCV販売は、半導体不足影響により大きく前年割れ。
- CV・LCV共に新興国向けへの出荷に振り替えることで、全体VOLは前年から微増。
- 損益は、売上変動／構成差の悪化に加え資材費・物流費が高騰するも、為替好転及び費用面での改善により、ほぼ想定通り。

2. '22年3月期見通し

- 海外市場の旺盛な需要は継続。
- 半導体不足は続いており、主に国内・北米向けの出荷に大きな影響。新興国向け出荷への振替を拡大し、マイナス影響を最小限に。
- 新型コロナウイルス感染拡大の影響により、部品供給に支障が発生。
- 損益は、売上変動／構成差の悪化、資材費・物流費の高騰を、為替好転、費用削減及び合理化追加でカバー。
- 通期の損益見通しは変更せず。

経營業務部門、企画・財務部門統括の南でございます。

まずは全体を総括して説明いたします。

当第3四半期は、海外市場からの高水準のオーダーが続きましたが、第2四半期に引き続き部品調達に苦戦いたしました。

特に、国内CV販売、タイLCV販売は、半導体不足影響により、前年を大きく下回りました。

しかしながら、全体のVOLは、新興国向けの出荷に振替えることができ、CV・LCV共に、前年をやや上回りました。

損益は、売上変動／構成差がマイナスとなり、また、資材費・物流費の高騰もありましたが、為替の好転、費用面での改善により、結果としては、ほぼ想定通りの業績となりました。

通期の見通しにつきましては、海外市場の需要は旺盛であるものの、半導体不足が続く、特に、日本国内、北米向けの生産に大きな影響が出ます。

斯かる状況下、新興国向け生産への振替を増やし、トータル生産台数へのマイナス影響を最小限にとどめるべく進めています。

損益については、売上変動／構成差の悪化、想定を大きく上回る、原材料価格や物流コストの上昇がありますが、費用削減・合理化の追加で、マイナス影響をカバーすべく、対応いたします。

通期業績につきましては、変更はなく、従来の見通しを維持致します。

全体総括②

3. サプライチェーン混乱による影響

	3Q実績	4Q見通し
日本	<ul style="list-style-type: none"> 東南アジア新型コロナ感染拡大収束により、現地からの部品調達は正常化 一方で半導体不足は続いており、部品供給に大きなインパクト 主に国内・北米向けトラックに減産影響発生 	<ul style="list-style-type: none"> 半導体供給不足は正常化が見通せず、不透明な状況が続く 新型コロナ感染拡大により、サプライヤーからの部品供給に支障発生 大型/中型/小型トラックの組立ラインを、計6直分停止
タイ	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナ感染拡大によるサプライヤー稼働影響は概ね収束 しかしながら半導体不足は続き、新型LCVに減産圧力 	<ul style="list-style-type: none"> 半導体供給の不足影響は、一部の部品で不透明続くも、全体では解消の方向 1月の完成車生産台数は3万台に到達

サプライチェーン混乱による影響について、ご説明いたします。

日本の工場生産は、昨年夏のコロナ禍でのシャットダウンによる、東南アジアからの部品調達問題は、当第3四半期で、収束いたしました。

一方で、半導体問題は、新たな不足部品も発生し、主に日本国内や北米向けトラックに大きな減産影響がでました。

第4四半期も、この半導体部品の正常化見通しが立っておらず、国内と北米向けでの減産が続きます。

1月には、国内サプライヤー工場で、新型コロナウイルス感染拡大による、部品供給がストップする事態がありました。大型/中型/小型トラックの組立ラインを計6直分、停止いたしました。その影響は期末までに吸収し挽回する予定です。

タイの工場生産では、コロナ禍によるサプライヤーの減産影響は当第3四半期では概ね収束しましたが、幾つかの半導体部品で、供給不足が続きました。

第4四半期では、特定の部品を除き、半導体問題は、ほぼ解消の方向に向かっています。

1月の完成車生産台数は30千台に到達しました。

全体総括 '22年3月期第3四半期実績

グローバル販売台数(千台)		'22/3-3Q	'21/3-3Q	対前年比増減		'20/3-3Q
CV計	国内CV	11	16	▲5	▲28%	15
	海外CV	69	49	+20	+42%	46
	UDトラックス	6	-	+6	-	-
CV計		86	65	+21	+34%	61
LCV計	タイLCV	44	53	▲9	▲17%	42
	輸出LCV	52	40	+12	+30%	34
LCV計		96	93	+3	+3%	76
合計		182	158	+24	+16%	137
決算実績(億円)						
売上高		6,388	5,153	+1,235	+24%	4,982
営業利益		513	462	+51	+11%	423
経常利益		532	493	+39	+8%	438
当期利益		335	302	+33	+11%	276

2022年3月期第3四半期実績は、グローバル販売台数が182千台、前年同期比16%増となりました。

海外CVや輸出LCVは先期を上回る結果となりましたが、生産制約を受け、国内CVやタイLCVは先期を下回りました。

売上高は、6,388億円、営業利益513億円、経常利益532億円、当期利益は335億円となりました。

全体総括 '22年3月期見通し

ISUZU

グローバル販売台数(千台)		'22/3期 見通し	'22/3期 前回見通し	対前回見直し比 増減		(参考) '21/3期	(参考) '20/3期
CV計	国内CV	53	69	▲16	▲23%	70	81
	海外CV	277	263	+14	+6%	190	208
	UDトラックス	18	18	±0	±0%	-	-
CV計		348	350	▲2	▲1%	260	289
LCV計	タイLCV	163	167	▲4	▲2%	151	163
	輸出LCV	212	213	▲1	▲0%	144	148
LCV計		375	380	▲5	▲1%	295	311
合計		723	730	▲7	▲1%	555	600
決算見通し(億円)							
売上高	25,000	25,000	売上高・利益・配当 の見通しは据え置き	19,082	20,799		
営業利益	1,700	1,700		957	1,406		
経常利益	1,750	1,750		1,043	1,509		
当期利益	1,100	1,100		427	812		
1株当たり配当	58円	58円		30円	38円		

2022年3月期見通しとしては、まず、半導体問題や、新型コロナによる混乱の影響を踏まえ、日本・タイの生産台数をアップデートしました結果、昨年11月発表の見通しに比べ、国内CV及びLCV販売台数を引き下げ、海外向けCVの販売台数を引き上げることとなりました。

売上変動／構成差の悪化、原材料価格・物流費の上昇が、追加ではありますが、費用削減、原価低減活動追加によりカバーできると計画しております。

その結果、今回の決算の見通しは、前回と変わらず、売上高25,000億円、営業利益は1,700億円、経常利益は1,750億円、当期利益は1,100億円となります。

配当予想は、年間58円を据え置きます。

私からのご説明は、以上でございます。詳細は、中俣より、ご説明いたします。

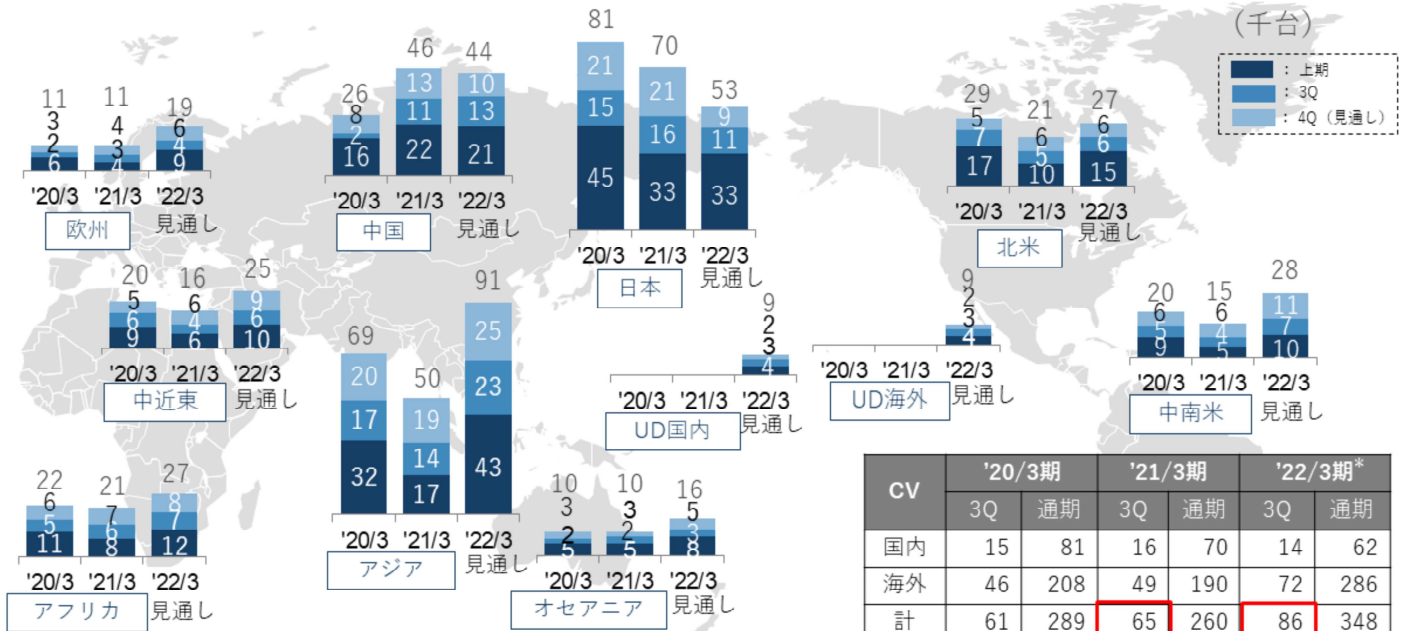
常務執行役員
企画・財務部門統括代行、
グループCFO

中俣 直人

2. 2022年3月期 第3四半期実績及び通期見通し

CVグローバル販売台数①

■ 3Q販売台数は、国内は生産制約により先期を下回るも新興国出荷へ振り替ることで全体では先期を上回る



*国内CV：国内卸売・直納、海外CV：北米/豪州は現地DB卸売、その他地域は日本出荷
 *UDは4月～9月の損益・販売台数を連結P/Lに反映

*国内/海外にはそれぞれUD国内/UD海外の台数を含む
 Copyright(C) 2022 Isuzu Motors Limited All rights reserved

企画・財務部門統括代行の中俣でございます。

続けまして、CVグローバル販売台数について、ご説明いたします。

第3四半期のCVグローバル販売は、UDトラックスの台数を含めて先期比21千台増の86千台となりました。

内訳は、国内は先期比2千台減の14千台、海外は先期比23千台増の72千台でございます。

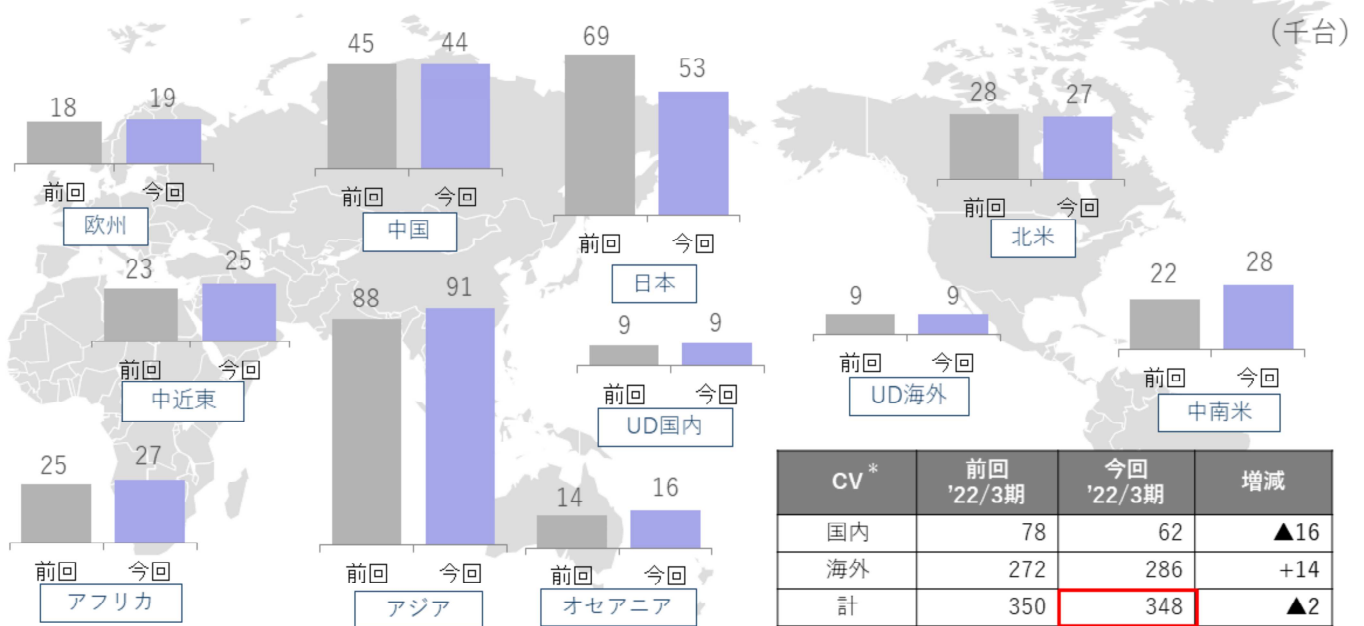
今回、UDトラックスの4月～12月の販売台数を標記しておりますが、第3四半期の連結損益には含まれるのは4月～9月の業績でございます。

国内販売は生産制約の影響が大きく、在庫を払い出したにもかかわらず、先期を下回る結果となりました。一方海外市場の需要は引き続き旺盛で、多くの受注をいただいております。国内向けから生産制約が比較的軽い、新興国向け出荷へ振り替えたこともあり、全体の販売台数は増加いたしました。

CVグローバル販売台数② 通期見通し（11月公表値との比較）

ISUZU

■ 引き続き旺盛な海外需要を背景に、国内の減少を新興国向けで補い11月公表値の水準を確保



*国内CV：国内卸売・直納、海外CV：北米/豪州は現地DB卸売、その他地域は日本出荷
 *UDは4月～9月の損益・販売台数を連結P/Lに反映

*国内/海外にはそれぞれUD国内/UD海外の台数を含む
 Copyright(C) 2022 Isuzu Motors Limited All rights reserved

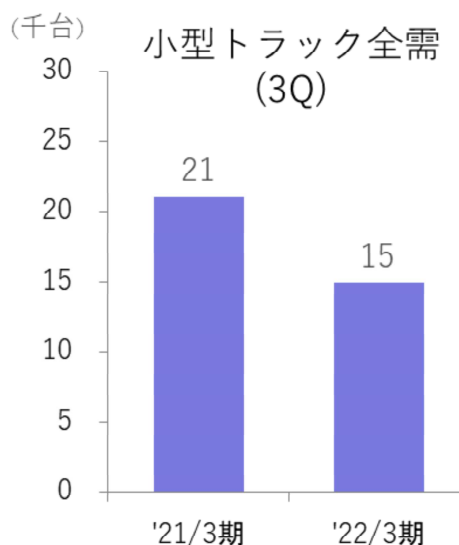
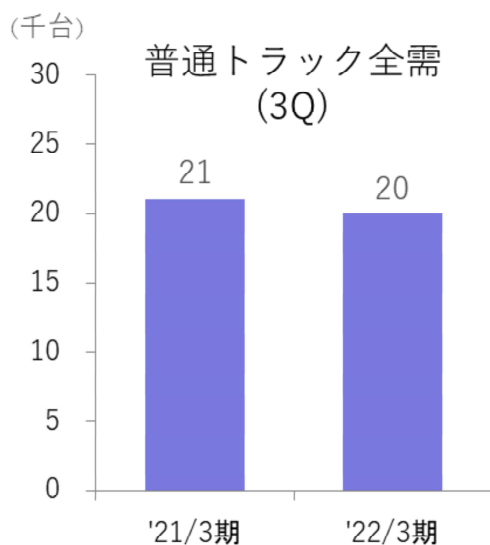
こちらは、11月の公表値との比較でございます。

通期見通しにつきましては、半導体供給や生産用部品が滞っている状況を、反映しております。国内については、半導体不足の影響が大きく、国内の減少分を海外新興国向けに振り替え、11月公表値並みの販売台数を見込んでおります。

国内全需・シェア実績 -普通トラック/小型トラック-

ISUZU

- 全需は普トラ・小トラ共に前年割れ、通期の見通しは不透明
- 小型トラックは生産制約により需要に応えられず、シェアを大幅に落とした



3Q	いすゞ	'21/3期	'22/3期
シェア	UDT	28.8%	32.2%
		(15.3%)	13.8%

3Q	いすゞ	'21/3期	'22/3期
シェア		37.5%	27.0%

12

Copyright(C) 2022 Isuzu Motors Limited All rights reserved

国内の状況でございます。

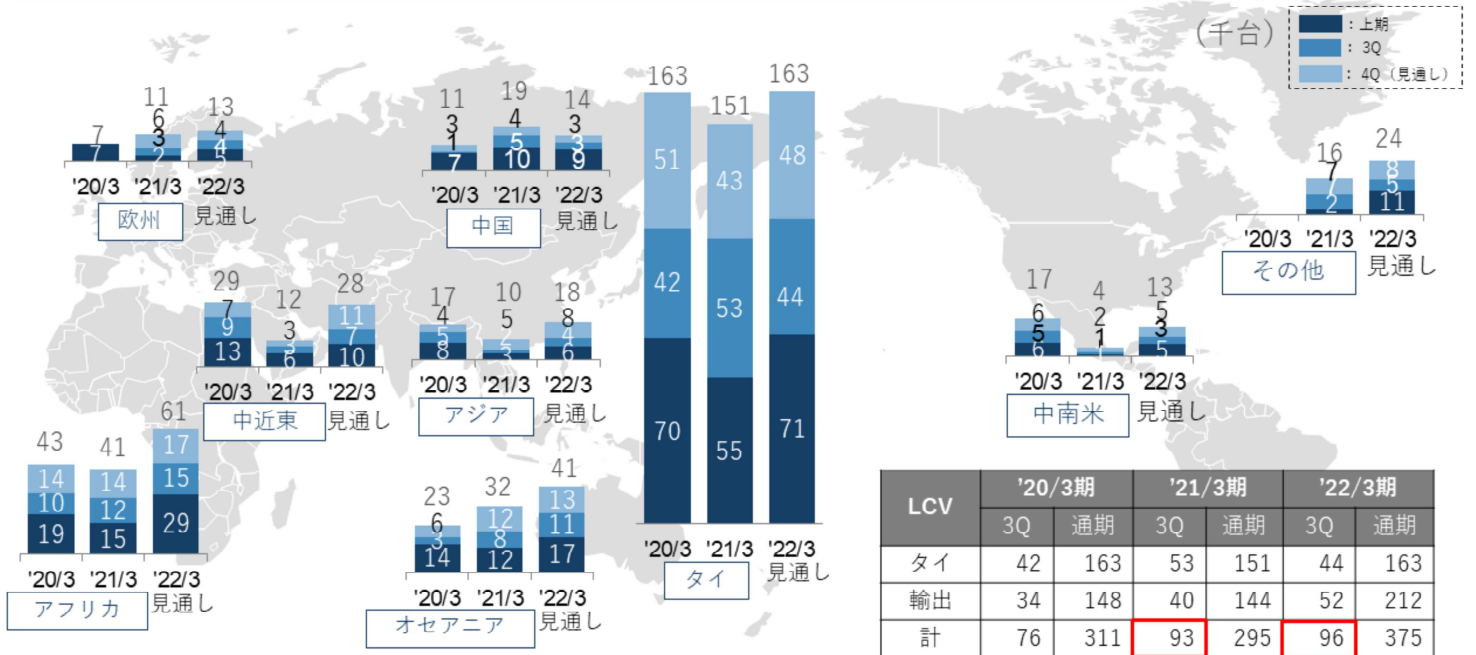
普通トラックの第3四半期の全需は、生産制約の影響を受け、20千台と先期を下回りました。一方で、シェアは先期を上回り、32.2%となりました。なお、UDトラックスのシェアは13.8%となりました。

小型トラックの全需も生産制約の影響を受け、15千台と大きく減少いたしました。生産制約により需要に応えられず、シェアも27.0%と大きく低下しております。

なお、通期全需見通しは、半導体不足が生産に与える影響が不透明であり、普通トラック・小型トラックともに未定とさせていただきます。

LCVグローバル販売台数①

■ 3Q販売台数は、新型LCVは半導体不足影響を受けるも旧型LCV出荷で補い、合計は先期並みを確保



13 *LCV：タイ出荷

Copyright(C) 2022 Isuzu Motors Limited All rights reserved

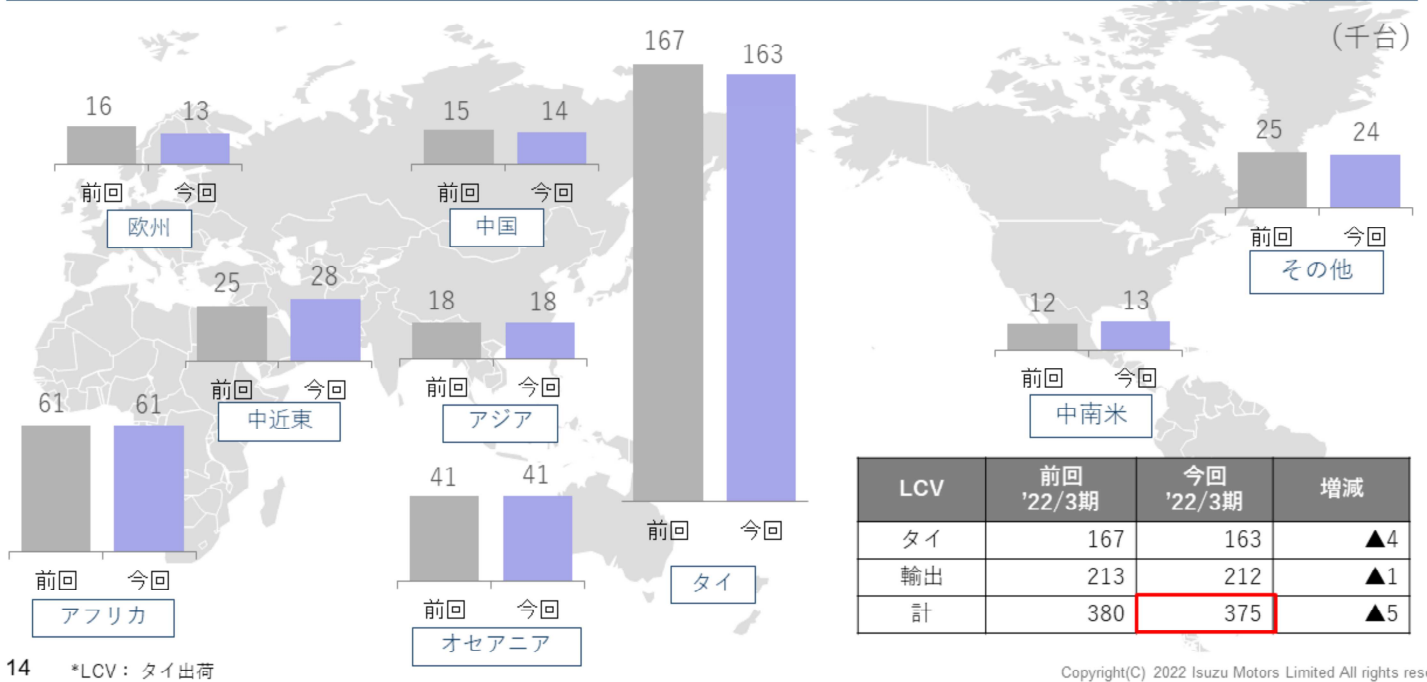
LCVグローバル販売台数でございます。

第3四半期のLCVグローバル販売は、タイにおける半導体不足により、主に、新型LCVの生産が影響を受けたものの、旧型LCVの出荷で、新型LCVの減産影響を補い、全体では、先期比3千台増の、96千台となりました。タイは、先期比9千台減の、44千台、輸出LCVは、先期比12千台増の、52千台となっております。

LCVグローバル販売台数② 通期見通し（11月公表値との比較）

ISUZU

■ CV同様需要は旺盛、半導体不足影響を受け出荷地域を調整

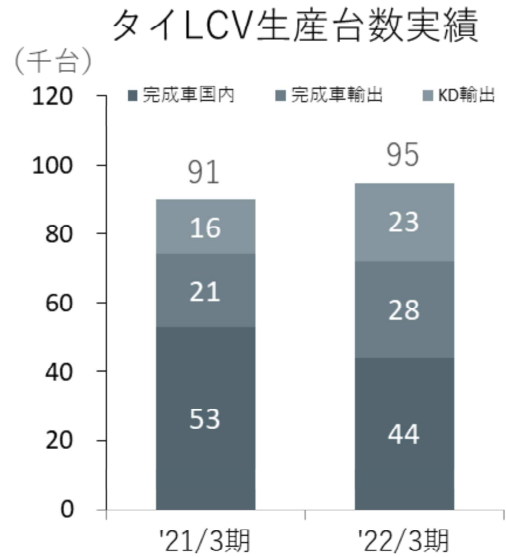
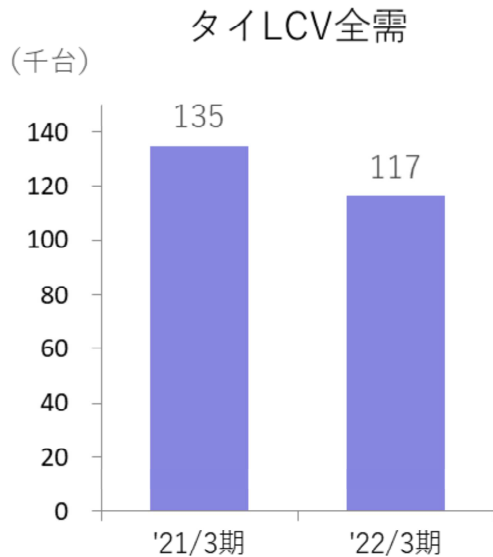


こちらは、11月の公表値との比較でございます。

通期見通しは、半導体不足影響を鑑み、出荷地域を調整。全体といたしましては、前回の公表値から、タイで4千台、輸出で1千台引き下げております。

タイLCV全需・シェア/LCV生産台数実績（10-12月）

- タイLCV全需は、生産制約により先期を下回った
- LCV生産台数は、新型LCVで半導体不足の影響を受けるも旧型LCVのKD輸出で補完



3Q
シェア
いすゞ
40.1% 41.0%

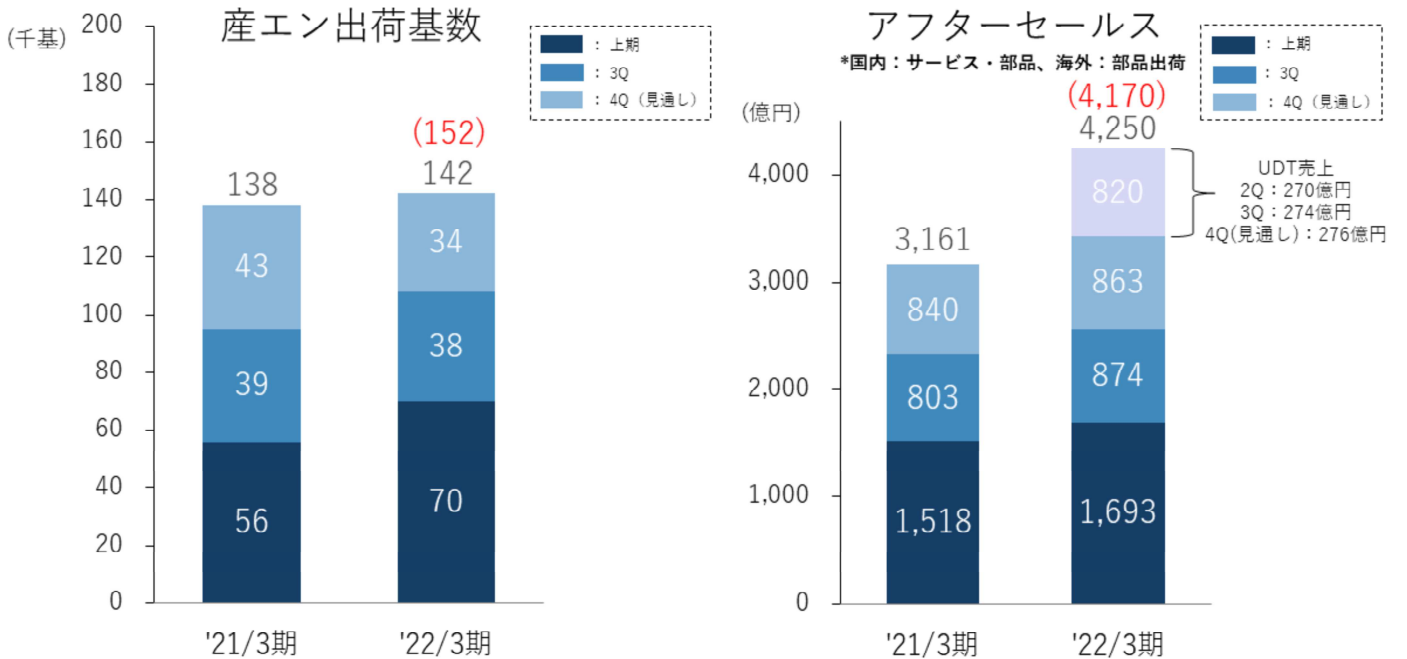
タイの状況でございます。

タイLCVの第3四半期全需は、サプライチェーンの混乱による生産制約により、先期を下回り、117千台となりました。シェアは引き続き、40%台を維持しております。全需見通しは、半導体不足による生産影響を考慮し、未定とさせていただきます。

LCV生産台数は、新型LCVが半導体不足の影響を受けたものの、生産キャパシティを、主に、旧型LCVのKD輸出に振り替え、先期比4千台増の95千台となりました。

産業用エンジン出荷/アフターセールス売上

- 産エン：中国建機需要の減速感を受け通期見通しを引き下げ
- アフターセールス：通期見通しは海外部品増収を反映し引き上げ



16 *カッコ内の数字は前回見直し

Copyright(C) 2022 Isuzu Motors Limited All rights reserved

産業用エンジン出荷及びアフターセールス売上でございます。

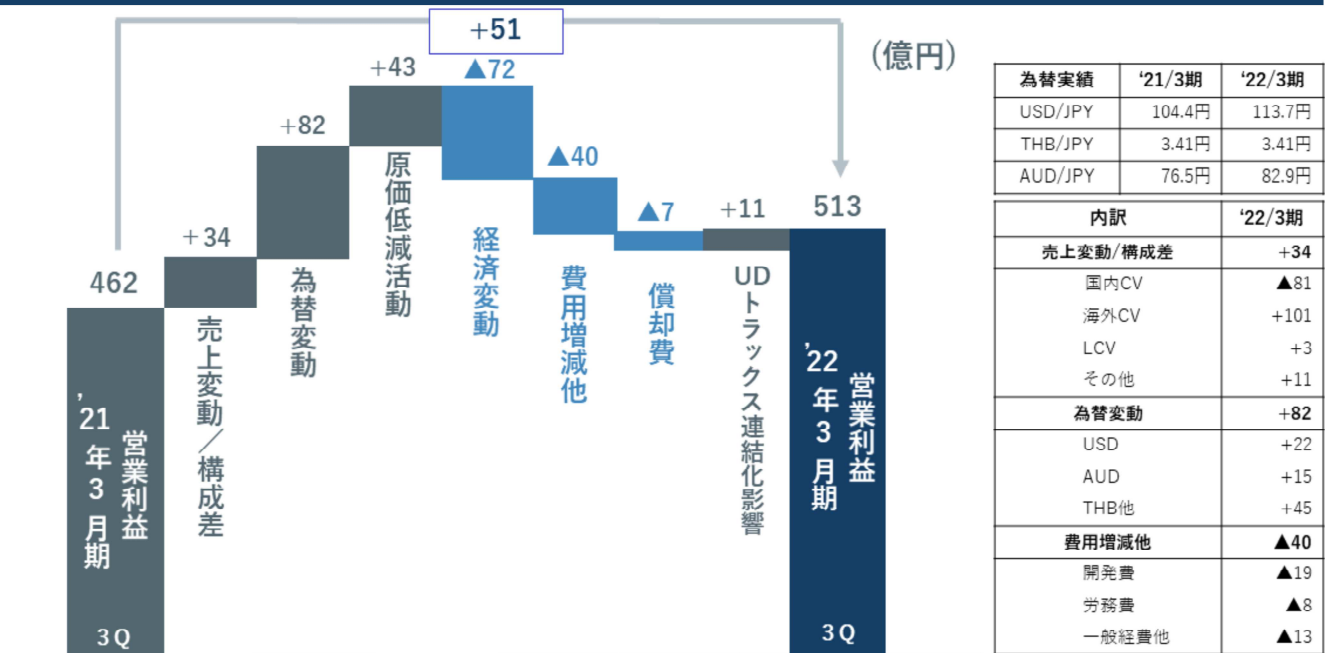
第3四半期の産業用エンジン出荷基数は先期比1千基減少の38千基となりました。また通期の見通しは、中国の建機需要が足元で減速感が見られることを受け、前回見直しより、10千基減少の、142千基に引き下げております。

アフターセールス売上について、いすゞの第3四半期は、先期から71億円増加の、874億円となりました。主に、海外ディーラー向け部品売上が、増加しています。また、UDトラックの、7月から9月の売上274億円を取り込んでおります。

通期見通しは、いすゞ分について、海外部品の増収を反映し、引き上げます。また、UDトラックは、4月から12月の売上、820億円を計画しております。

'22年3月期第3四半期営業利益 増減分析 -前年同期比-

■ 半導体不足、原材料高騰の影響あるも、為替変動、原価低減活動により増益、想定線の水準となった



2022年3月期 第3四半期営業利益実績の前年比増減分析でございます。

主な増益要因は、売上変動/構成差が+34億円、為替+82億円、原価低減活動+43億円となりました。また、UDトラックスの連結化影響は+11億円となりました。

主な減益要因は経済変動▲72億円、費用増減他が▲40億円、償却費が▲7億円となりました。

11月公表の見通しとの比較では、売上変動/構成差、資材費・物流費が悪化したものの、為替の好転、費用面での改善により、ほぼ想定通りの業績となりました。為替実績は、表に記載した通りでございます。

'22年3月期第3四半期実績 - 前年同期比 -

(億円)	'22/3-3Q	'21/3-3Q	対前年比増減	
売上高	6,388	5,153	+1,235	+24%
営業利益	513	462	+51	+11%
経常利益	532	493	+39	+8%
当期利益*	335	302	+33	+11%

当期利益*	経常利益	532
	固定資産売却却損等	1
	法人税等	▲116
	非支配株主に帰属する当期純利益	▲82
	当期利益*	335

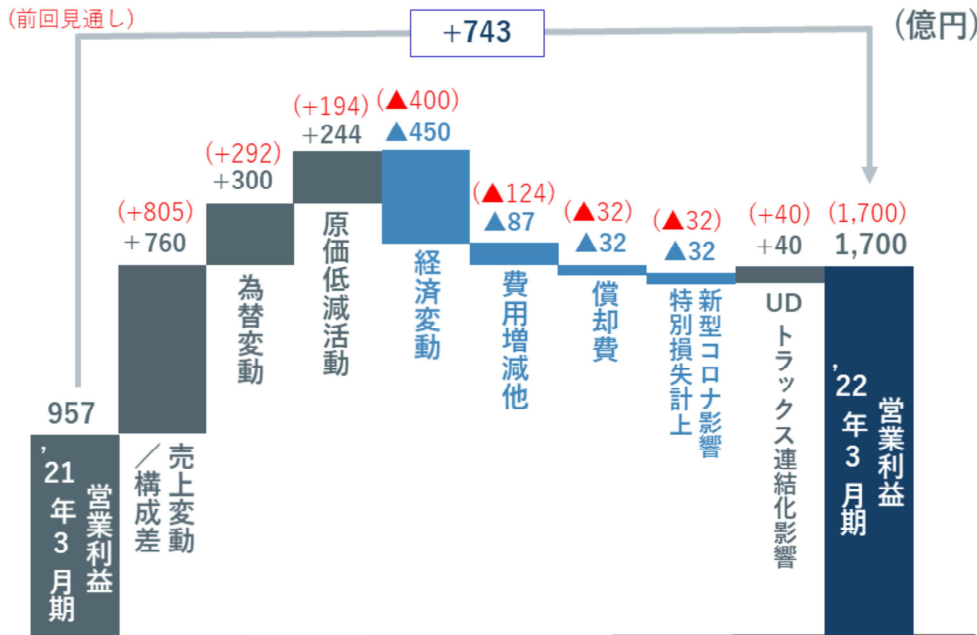
*親会社株主に帰属する当期純利益

経常利益と当期利益の、段差の説明でございます。

当期利益は、経常利益532億円から投資有価証券売却益や固定資産売却却損、法人税等、及び非支配株主に帰属する当期純利益を差し引き、335億円となりました。

'22年3月期営業利益見通し 増減分析 -前年同期比-

■ 半導体不足に加え原材料価格の高騰が想定以上となるも、原価低減活動及び固定費削減の推進でカバー、通期見通しを据え置く



為替	'21/3期	'22/3期
USD/JPY	106.0円	110.8円
THB/JPY	3.42円	3.41円
AUD/JPY	76.2円	82.5円

内訳	'22/3期
売上変動/構成差	+760
国内CV	▲220
海外CV	+498
LCV	+280
その他	+202
為替変動	+300
USD	+48
AUD	+63
THB他	+189
費用増減他	▲87
開発費	▲80
労務費	▲25
一般経費他	+18

2022年3月期 営業利益見通しの増減分析です。

主な増益要因は、売上変動／構成差が+760億円、為替変動+300億円、原価低減活動+244億円、UDトラックスの連結子会社化影響+40億円を見込んでおります。

主な減益要因は、原材料価格・物流費上昇に伴う経済変動▲450億円、費用増減ほか▲87億円、償却費▲32億円、先期に計上した、新型コロナ感染拡大に関わる特別損失の振替分▲32億円を見込んでおります。

11月の公表見通しと比べ、売上変動／構成差の悪化及び11月の想定を上回る原材料価格や物流コストの上昇はございますが、費用削減、合理化を追加で実施することでカバーいたします。現時点での営業利益見通しは1,700億円のまま据え置いております。為替の見通しは表に記載の通りでございます。

'22年3月期決算見通し - 前年同期比 -

(億円)	'22/3期	'21/3期	対前年比増減	
売上高	25,000	19,082	+5,918	+31%
営業利益	1,700	957	+743	+78%
経常利益	1,750	1,043	+707	+68%
当期利益*	1,100	427	+673	+158%

当期利益*	経常利益	1,750
	固定資産売却却損等	▲30
	法人税等	▲380
	非支配株主に帰属する当期純利益	▲240
	当期利益*	1,100

*親会社株主に帰属する当期純利益

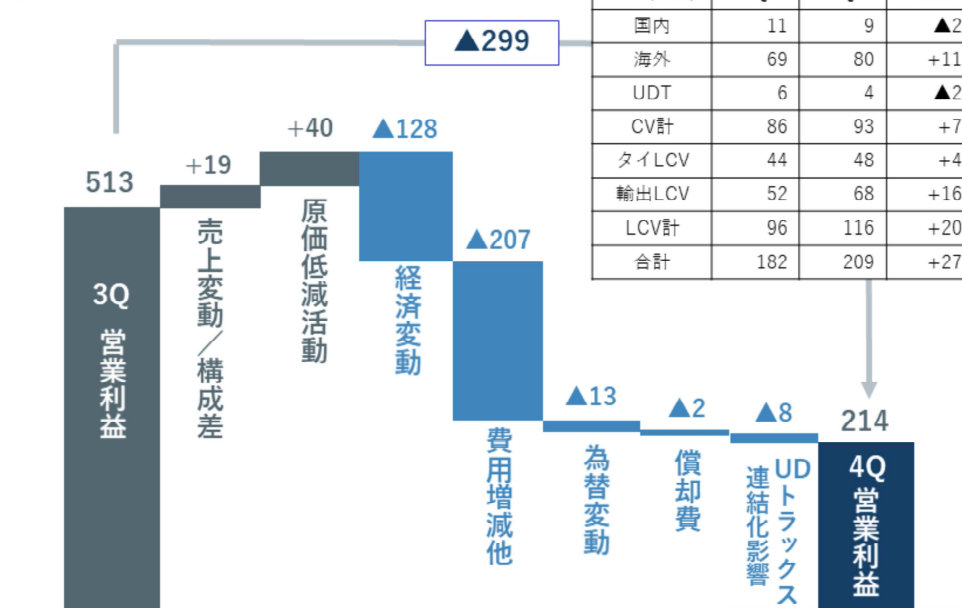
2022年3月期の決算見通しでございます。

当期利益は、経常利益1,750億円に加え、固定資産売却却損▲30億円、法人税等▲380億円、非支配株主に帰属する当期純利益▲240億円を計上することにより、1,100億円を見込んでおります。

【参考】'22年3月期営業利益 増減分析 -3Q/4Q比-

■ 海外CV及びLCVのVOLは増加するも国内CVは減少、経済変動及び費用増減の減益影響は第4四半期に集中

(億円)



為替	3Q	4Q
USD/JPY	113.7円	110.0円
THB/JPY	3.41円	3.40円
AUD/JPY	82.9円	82.0円

内訳	'22/3期
売上変動/構成差	+19
国内CV	▲50
海外CV	+25
LCV	+45
その他	▲1
為替変動	▲13
USD	▲7
AUD	±0
THB他	▲6
費用増減他	▲207
開発費	▲64
労務費	▲6
一般経費他	▲137

21

Copyright(C) 2022 Isuzu Motors Limited All rights reserved

最後に、2022年3月期の第3四半期と第4四半期の営業利益の段差の説明でございます。

主にLCVの出荷増により売上変動/構成差がプラスとなるものの、経済変動のマイナス影響に加えて、開発費等の費用が第4四半期に偏っていることもあり、第4四半期の営業利益は、第3四半期と比べて299億円の減益となる214億円を見込んでおります。

私からのご説明は、以上でございます。

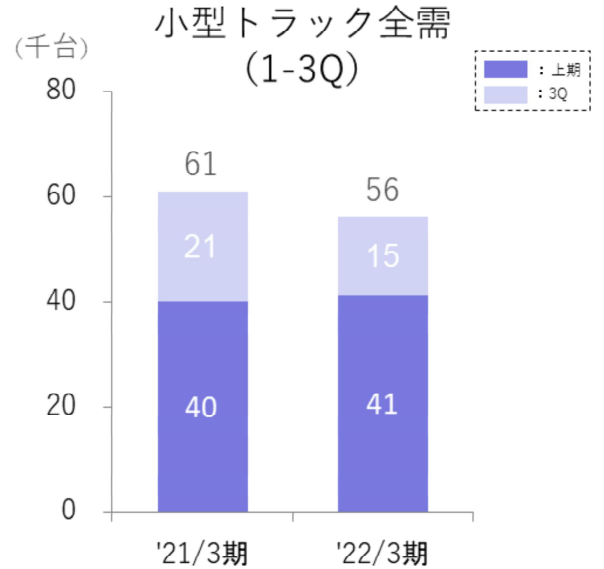
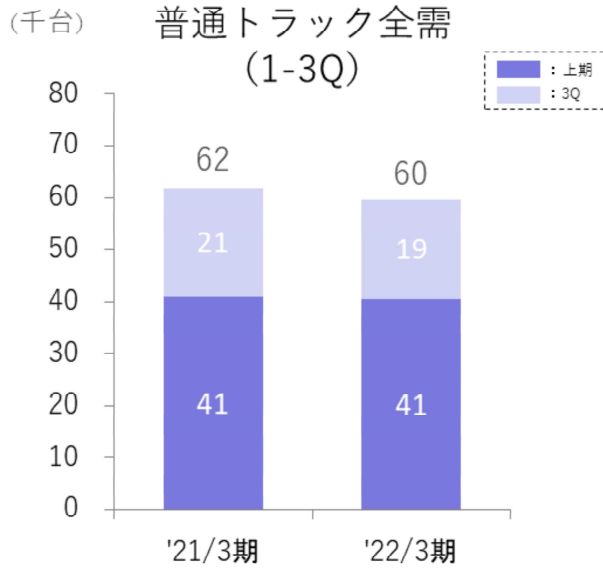
「運ぶ」を支え、環境と未来をひらく

ISUZU

全体総括 '22年3月期第3四半期実績（累計）

グローバル販売台数(千台)		'22/3 1-3Q	'21/3 1-3Q	対前年比増減		'20/3 1-3Q
CV計	国内CV	45	49	▲4	▲8%	60
	海外CV	197	126	+71	+57%	152
	UDトラックス	13	-	+13	-	-
CV計		255	175	+81	+46%	212
LCV計	タイLCV	116	108	+8	+7%	112
	輸出LCV	144	91	+53	+59%	110
LCV計		260	199	+61	+31%	222
合計		515	374	+141	+38%	434
決算実績(億円)						
売上高		17,838	13,082	+4,756	+36%	15,183
営業利益		1,486	630	+856	+136%	1,137
経常利益		1,599	663	+936	+141%	1,173
当期利益		1,047	285	+762	+268%	674

国内全需・シェア実績 -普通トラック/小型トラック-



3Q いすゞ
シェア UDT

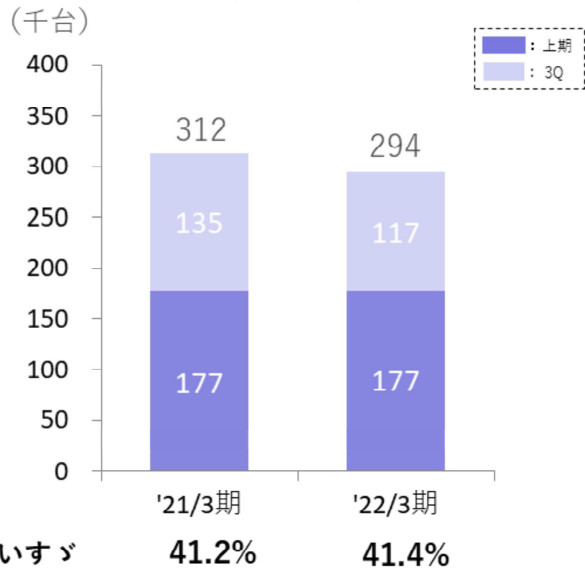
'21/3期 32.1%
(12.0%)
'22/3期 33.1%
11.6%

3Q いすゞ
シェア

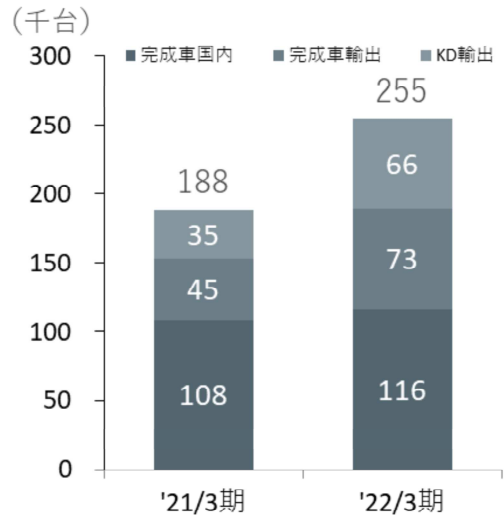
'21/3期 40.0%
'22/3期 37.3%

タイLCV全需・シェア/LCV生産台数実績

タイLCV全需
(4-12月)



タイLCV生産台数実績
(4-12月)

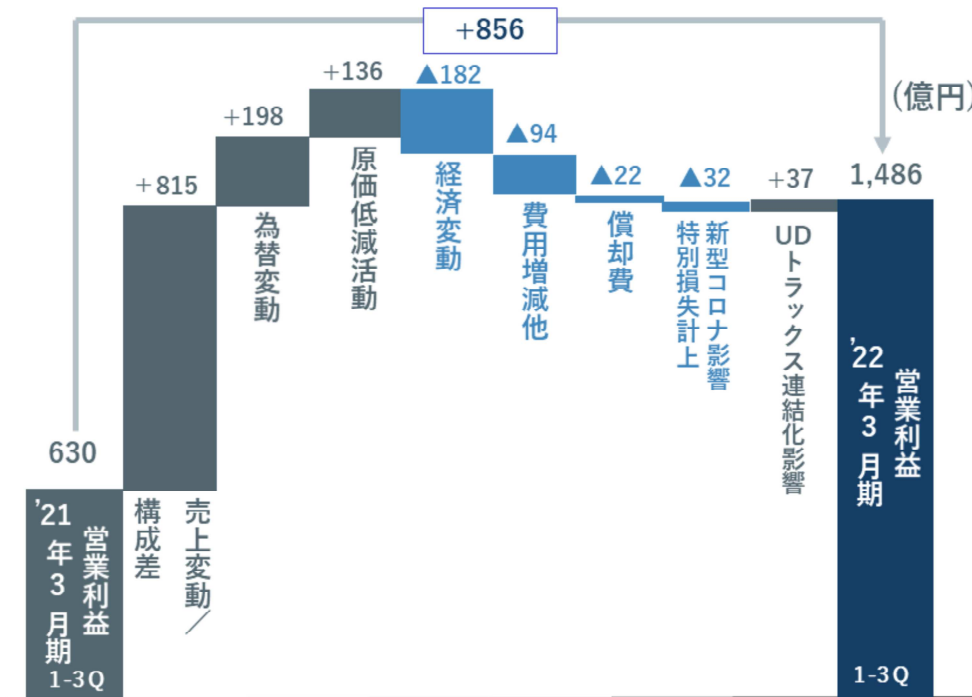


3Q
シェア
いすゞ

41.2%

41.4%

'22年3月期第3四半期営業利益 増減分析(累計) -前年同期比-



為替実績	'21/3期	'22/3期
USD/JPY	106.0円	111.1円
THB/JPY	3.39円	3.41円
AUD/JPY	74.4円	82.7円

内訳	'22/3期
売上変動/構成差	+815
国内CV	▲81
海外CV	+401
LCV	+273
その他	+222
為替変動	+198
USD	+29
AUD	+52
THB他	+117
費用増減他	▲94
開発費	▲49
労務費	▲15
一般経費他	▲30